



認知症疾患医療センター

精神保健福祉士 井上 いづみ

上野公園病院は平成26年9月1日に県からの認可を受け「大分県認知症疾患医療センター」を開設しました。今年9月でちょうど丸3年となります。

「認知症疾患医療センター」とは

保険医療・介護保険と連携を図り、認知症に対して進行予防から地域生活の維持まで、必要となる医療を提供できる機能体制の構築を図る事を目的とする機関です。その役割は大きく4つあります。



①認知症に関する専門医療相談

本人や家族からの認知症に関する相談に対応するとともに、かかりつけ医や地域包括支援センター等と連携を図る。

②認知症の鑑別診断と初期対応

専門の医師による詳しい鑑別診断。診断に基づいた治療や初期対応を行う。

③認知症BPSDへの対応

認知症BPSD(幻覚・妄想・徘徊等)や身体合併症の対応。

④研修会の開催・情報発信

かかりつけ医や介護関係者への研修会を開催し、認知症に関する情報提供を行う。

認知症疾患医療センターの連携

当認知症疾患医療センターが大分県西部に位置している事から、受診・相談の多くは日田地域次いで玖珠、九重地域のからとなっています。又、県境にあるという事で福岡や熊本等県外からの受診もあります。相談の多くは、地域包括支援センターからの電話相談によるもので、独居高齢者、BPSDの激しい方など、事前に情報提供を受けてスムーズに受診につなげる様にしています。



他医療機関との連携もしており、特にかかりつけ医からは初期認知症に対する鑑別診断や認知症の対応相談等で認知症疾患医療センターを患者に紹介してもらいます。その際、かかりつけ医からの紹介状により患者の日頃の様子や病歴等情報共有をしています。初期の認知症であれば認知症疾患医療センターとかかりつけ医が情報共有・連携してその後もかかりつけ医のフォローを継続する事が出来ます。かかりつけ医以外にも、認知症疾患医療センターと連携医療機関の体制があるので診断の難しい初期の認知症や脳外科的疾患が疑われる場合には連携医療機関にCTやMRIなど詳しい画像検査を依頼します。

認知症に関する普及啓発活動

認知症疾患医療センターでは、認知症に関する知識の普及啓発を目的に研修会を開催しています。かかりつけ医や地域包括支援センター、一般病院や介護施設に向けた研修会から、認知症患者家族、地域住民へ向けた研修会等も行っているのぜひ参加してみてください。

スプーンの先まで心を込めて

居宅介護支援センター うえの 高嶋 夏津枝

介護保険制度は、「自立支援」を基本に相談援助・支援されていますが、自立支援とはなんですか？

「介護福祉の分野においては対象者のADL（日常生活動作）の自立に向けた支援などを指して用いられることが多いが、身体的な自立に限らず精神面での自立を支援する事や対象者の主体性や意向を尊重することも自立支援に含まれ、対象者の持っている力にも注目して支援する事を自立支援と言う」と書かれていました。

それでは、重度の認知症の方の自立支援とはなんですか？・・・とても悩みますが、利用者さんが教えてくれました。その利用者さんは、言葉が話せず、食事も全介助です。口を自分であける方法さえも忘れていたのです。しかし、耳は聞こえ、感情も表情で返してくれます。苦痛なく食事介助する方法がないかと思い、外部の言語療法士の方にデイケアで指導を受けることにしました。いつものように介護職の方が食事介助をされていました。利用者さんが、笑顔で目を開けて食べていました。介護職の方の手は、まるで「本人の右手」のようにやさしく、歯にスプーンが当たることもなく、穏やかな食事介助の場面でした。声掛けの言葉もやさしく、食事内容の声掛け、昔話や家族のお話をしていました。言語療法士の方より、「久しぶりに優しい食事介助を見ました」と言われました。

言葉が話せない利用者さんの食事介助になると「食べさせる行為」に追われる印象がありますが、本来、食事は「楽しみ」の要素もあると思います。その介護職の方に聞くと「スプーンが口に入り、口から出る瞬間まで、スプーンの前まで心を込めています」と答えられました。その優しい寄り添いの心と手が、利用者さんの心の扉を開けていることに気が付きました。

言葉が話せなくても、本人の感情に働きかけたケアは、自立支援につながるのではないかと思います。忙しい業務の中、やさしいケアをしてくださる事に心より感謝をしています。（ご家族の同意を得て掲載させてもらっています。そのご家族より一言いただきましたので、お知らせします。「仕事を越えたケアをしていただけていることに、感謝しています。介護スタッフを“月よりの使者”だと思っています。）



作業療法だより

皆さんRAN伴（ランとも）ってご存知でしょうか？

2011年からNPO法人「認知症フレンドシップクラブ」が毎年開催しており、認知症の方、そのご家族、支援者の方、一般の方

が、タスキを繋いで日本を縦断しゴールを目指すプロジェクトです。RAN伴（ランとも）が目指すのは「認知症になっても安心して暮らしていける町づくり」で、それは地域に暮らす人たちがお互いを知り、それぞれが考え、そして、同じビジョンを描きながら繋がりあう事から始まるのだと考え、地域の人たちと出会い、お互いを知りあう事で認知症について考える機会を作るイベントでもあります。

昨年から大分県内でもRAN伴プラスとしてタスキをつなぎゴールを目指しました。日田市でのRAN伴プラスは当院をスタートして、日田市内を經由してサニー日田店までをタスキでリレーをして、沿道での応援などあり、大変な盛り上がりでした。

今年も10月29日(日)に開催される予定です。実行委員に高校生も加わり、若い世代と共に盛り上げて「認知症になっても安心して暮らしていける町づくり」につなげていければと考えています。もちろん、タスキをつなぐランナーも募集しております。また、沿道でみかけたらぜひご声援をお願いします。

